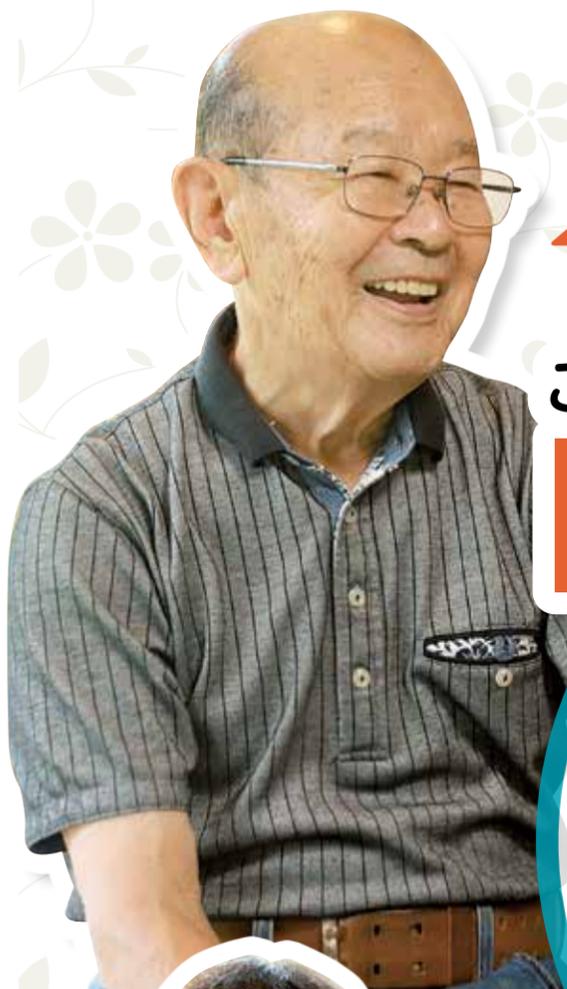




今号の紙面から ● 3面 ご登録ください デジタル町内会「いちのいち」 ● 8面 「町田市名産品」が決定しました



5、6年前に認知症になり、穏やかな時もあるし、ひどく落ち込む時もあり、その繰り返しが苦しかったです。今は、認知症であることを隠さず、その症状を受け入れて自分のできることをやっています。

岡本さん

12



13



おおりファーム 高橋さん

認知症の人と接する時は、あえて気を使わず、意識しないようにして、できる人には全部やらせようようにしています。

このまちで

認知症と ともに生きる

9月は認知症の正しい理解を促進する世界アルツハイマー月間です。

市では、認知症になっても本人や家族が安心して生活できるよう「認知症とともに生きるまち」を目指し、認知症に関する普及啓発活動を実施しています。

今回は、竹林を整備する活動等に取り組んでいるHATARAKU認知症ネットワーク町田の皆さんにお話を伺いました。

問 高齢者福祉課 ☎724・2140



若年性の認知症についての問い合わせも増えてきています。認知症は人生の節目になってくるので、今後、認知症が普通に受け入れられる社会になるといいと思います。

(一社)Dフレンズ町田 松本さん

10



7



認知症になっても、みんな竹の根を切ったり、竹の子を取ったりして、楽しく活動しています。みんな旅行にも行ってみたいですね。

佐藤さん



HATARAKU認知症ネットワーク町田とは

市内の就農者や地域住民、認知症の人等が北部丘陵の竹林を整備しながら切り出した竹を使った創作活動や交流を行っています。メンバーが作った竹灯籠は、「認知症になってもできることはある」というメッセージを込めて、市内各所で展示されています。

16のまちだ アイ・ステートメント

認知症に関心をもつ人たちが集まり、現在認知症である「私」、これから認知症になりうる「私」として、町田市がどのような地域であってほしいか、目指すべき地域のあり方を16の文章にまとめ、活動のビジョンを示しています。ここではその一部を紹介します。

すべてのステートメントはこちら➡



- 1 私は、早期に診断を受け、その後の治療や暮らしについて、主体的に考えられる
- 2 私は、必要な支援の選択肢を幅広く持ち、自分に合った支援を選べる
- 7 私は、素でいられる居場所と仲間を持っており、一緒に時間を楽しんだり、自分が困っていることを話せる
- 9 私は、しごとや地域の活動を通じて、やりたいことにチャレンジし、地域や社会に貢献している
- 10 私は、認知症について、地域の中で自然に学ぶ機会を持っている
- 12 私は、地域や自治体に対して、自分の経験を語ったり、地域への提言をする機会がある
- 13 私は、認知症であることを理由に差別や特別扱いをされない
- 15 私は、支援が必要な時に、地域の人からさりげなく助けてもらうことができる
- 16 私たちも、認知症の人にやさしいまちづくりの一員です

市の取り組みや相談先は2面へ